”病院を人が集まる場所に。舞台の準備が私たちの仕事“

PROFILE

ごたんだ・きよかず●2005年久留米大学医学部卒。済生会二日市病院、同福岡総合病院、同日田病院を経て2016年、五反田病院院長。2024年から理事長を兼任。2014年から7人制ラグビー日本代表チームドクターを務める。

――スモールコミュニティは、どのようなイメージですか。

五反田　2016年に当院に戻ったとき、日田市は人口が減少し寂しいまちになったと感じました。スポーツをしている学生は高校卒業後県外に出ますし、看護学生もほとんど地元に残りません。いったん、県外に出た若い人たちが戻ってくるまちにしたいと考えました。

また、遠方からご年配の方が受診する際、付き添いの方は数時間病院ですごす姿をよく見ていました。その時間で買い物ができたり静養したり、カフェでゆっくりできるようになればいいなと思っていました。病院を中心に地域の人が快適かつ安心して暮らせる環境づくりが、スモールコミュニティのイメージです。

スモールコミュニティの実現とともに、常にチャレンジする病院にしたいと思い、年に1つ新設や増設を行い、また同時に院内改革を進める事にしました。

介護部門ではデイケア施設、有料老人ホームを開設し、予防医学としてはメディカルフィットネスをスタートさせました。23年には図書館を併設したカフェも完成しました。医療、介護、予防、食の4本柱ができ、これから地域へどんな社会貢献ができるかを常に考えています。

――スモールコミュニティの実現には、職員の活躍も必要ですね。

五反田　全職員が集まる朝礼で毎月私が考えていることを伝えます。準備は大変ですが、職員の顔を見ることが大切です。意見を交わしながら事業に取り組むなかで、良い人材が育ってきました。「これに取り組んでほしい」と指示した際、「やってみます」という人は期待できます。こちらも満点を望んでいるわけではなく、最低限の合格点をもってくれれば、次のステップに進んでいけます。反対に、やってみてもいないのに最初から「できません」という人は、今後のチャンスはないと言えるでしょう。

職員が自信をもつためには学術的な勉強や発表の場も必要ですし、人前で話をしたりたくさんの人と会うことが大切です。当たり前ですが、あいさつとコミュニケーションができなければ、人に会ってもあまり意味がありません。学会に限らず、出会った人から学びたいと思えば、自分から積極的にコンタクトをとるように指導しています。このようなことをしっかりと継続して行うことで、自然と自信はついてくると考えています。

先日、地域の交流を目的に、患者さんがつくった野菜を販売する「五反田野菜マルシェ」を初めて開催しました。私が「やる」というと、約10人の職員が内容案を提出し、話し合いを重ねて成功につながりました。私が描いていることを職員が理解し、思いを共有できるようになったことがうれしいです。

自部署の仕事だけでなく自律・自発的に行動できる人材を増やすことが、今の私の仕事です。一つの仕事をするだけではなく、マルチにできる職員を増やすことができれば、スモールコミュニティの実現に近づきます。

――日本代表チームのスポーツドクター、スモールコミュニティづくりと幅広くて大変そうですね。

五反田　分けて考えると大変ですが、どちらも病院にとって必要です。7人制ラグビーの国際試合に帯同する際は、各国のスポーツジムやトレーニングの様子を見学できます。最新の機器やトレーニング法を知り、当院のメディカルフィットネスに導入することもできます。

最近は口コミで広がり、ラグビーに限らずさまざまなスポーツ選手が来てくださり、病院にとってプラスにもなっています。

また、遠征帯同のため長期間病院にいない間は、職員が成長できる時間になってほしいと思っています。海外にいるときはメールで指示を出すのですが、返信の内容で進捗状況がわかり、職員の成長具合も把握できます。私にとっても取り組みを客観的に見ることができ、病院に戻った際に的確に調整できるというメリットもあります。

――今後の目標を聞かせてください。

五反田　地域の方が病院に来て、患者さんや利用者さんと一緒に楽しめる機会を増やしたいと思います。

陶芸教室や料理教室などを開催し、患者さんが地域の方に教えてもらったり、患者さんが先生になるケースもあります。活躍できる舞台を数多く準備することが、病院の役割だと思います。

自分一人では解決できないことも病院に来れば誰かが助けてくれる。自分にはない能力を持っている人が周囲にはたくさんいますから。病気じゃなくても来たくなる病院。それが私がめざしている姿です。

私は現在48歳ですが、100歳になるまでの計画を立てています。100歳はまだ答えが出ていませんが、60歳、70歳くらいまではすでに考えています。60歳は、次のリーダーにバトンタッチする年齢だと思っていますので、バトンタッチできる人材を今から育てるのが目標の一つです。

Q&A 10問10答

Q1 自分の性格をひと言でいい表すと？

まっすぐ、これだと決めたことにはブレずに突き進む

Q2 弱点を1つ教えてください。

人からの頼まれごとを断れないこと

Q3 最近うれしかったことは？

春になると毎年30名ほどの新人スタッフと歓迎会ができること

Q4 今はまっているものはありますか？

ゴルフとサウナ

Q5 タイムマシンがあったら行きたいのか過去？　未来？　その理由は？

医学部ラグビー部時代。ラグビー漬けの毎日でした。今のラグビー理論を当時取り入れていたら、西日本医科学生総合体育大会で優勝できていたかもしれない

Q6 人生で最も影響を受けた人は？

済生会福岡総合病院名誉院長の岡留健一郎先生。研修医のころ、「責任は自分がとるから、皆さん思いっきりやってください」と圧倒的なリーダーシップを発揮されていた。男気があり、厳しさと優しさのバランスが素晴らしい

Q7 日課はありますか？

毎朝、起床時にコーヒーを飲みながら、メールを返信すること

Q8 人生最後に食べたいものは？

エビフライとボタンエビの刺身

Q9 今一番会いたい人は誰ですか？

タイガー・ウッズ

Q10 病院トップとしてふさわしい素養は？

安易に妥協せず、無窮の精神を持ち続けること。常にどうすれば職員、患者さんが喜ぶのか考え行動し、プレイングマネジャーとして病院全体を健全に運営できるよう、時代の流れに負けず経営力を勉強し続けること

●医療法人利光会五反田病院

常に新しいことにチャレンジ

大分県日田市で消化器外科、内科、整形外科、麻酔科、形成外科を標榜し地域医療に取り組む。「無窮」を理念に、新しい医学医療を吸収し、誠心誠意患者の身になって診療看護に尽くす。66床